

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立天下茶屋小学校

令和8年3月

令和8年度 学校関係者評価報告書

大阪市立天下茶屋小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。

「市学力経年調査」や「学校生活アンケート」、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」その他検証資料の結果から、学校が多く取組を企画・実行し、子どもたち一人ひとりにより添った教育活動を行っていることがうかがえた。まだ学力向上や不登校についての課題は残っているが、保護者が地域と連携して引き続き取り組みを進めてほしい。日々の学校ホームページやメール配信等の情報発信を通じて、学校が行っている教育活動が地域や保護者など外部の方にとって把握しやすいところも評価できる。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：**【安全・安心な教育の推進】**

学校の年度目標

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和7年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 令和7年度3学期における校内アンケートで「あいさつが、しっかりできている」と答える児童の割合を全体の80%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

- ・達成状況や進捗状況の評価に関しては妥当かと思われる。市経年調査アンケートの「いじめはどんなことがあってもいけないと最も思う」の回答割合が90.7%「人の役に立つ人間になりたいと思っている」94.5%校内アンケート「あいさつをしっかりとしている」89%と高くなっている。今後も子ども達が安心して学校生活を送ることができるよう、取組を継続してほしい。
- ・校内調査において、不登校児童の改善に向けて、SSWや子育て支援室、こどもサポートネットと連携が取れていることがわかった。保護者の意向で登校していない児童がいるが学校ができる限りより添っていることで不登校改善率が上がったことにつながっていると思われる。

年度目標：【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学校の年度目標

- 令和7年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる(思う)」に回答する児童の割合を40%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査において、「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一の母集団で比較し前年度より向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント減少させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上、上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント増加させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」の項目について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える児童の割合を前年度より向上させる。

- ・達成状況や進捗状況の評価に関しては妥当かと思われる。学校での体力・運動能力に関する取組はよくやってくれている。放課後を含めて保護者にももっと体づくりを意識してもらいたい。市内の公園等で自由に遊ぶ場所が減っているのであれば、昔のようにPTAが主導で校庭開放を復活することも検討してみてもどうか。市経年調査結果からは、正答率の平均目標は2学年・3学年で目標を達成できたことは評価するが、まだまだ学力向上が課題である。学年ごとの推移が表にもあらわれているので、区役所のジャガピースクール事業をもっとうまく活用し、数値の低い学年はさらに重点的に取り組みを進めてほしい。
- ・図書館にマットを導入し、大型絵本が読みやすくなった。よりくつろいで読書に取り組めるようになった雰囲気も評価できる。

年度目標：【**学びを支える教育環境の充実**】

学校の年度目標

- 学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「デジタル教材を使った学習は楽しいですか」の項目に対して「楽しい」と答える児童の割合を前年度以上にする。
- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日数の50%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。

- ・達成状況や進捗状況の評価に関しては妥当である。9月に新たな学習者用端末が導入され、授業での効果的な使い方についてICT支援員も含めて研修を開催してきた。端末利用率が9月までは、一桁台だったのが10月以降からは、西成区内でもトップの利用率となり、成果を上げるようになった。今後は子どもたちが情報リテラシーを身につけ、家庭学習でICT機器を活用することにも積極的に取り組めるよう、さらに工夫してほしい。
- ・年間授業日数の50%以上にするでは、1月は100%を記録できた。教職員の皆さんがとても尽力したことが窺える。
- ・時間外勤務時間の改善では、基準2で94%を達成。毎日18時を警備セット時間に設定したことやみんなの仕事の割り振りを行ったことで削減につながったと考えられる。

3 今後の学校園の運営についての意見

いずれの取組内容において、指標となる児童及び保護者アンケートの結果や各種調査では、各項目とも概ね目標に達しているか、上回っている。それぞれの取組が成果へとつながっていると考えられる。学校は、保護者・地域とさらに連携し、次年度以降も成果が上がるよう取り組んでほしい。